

日本臨床歯科学会 大阪支部 2019年度第2回学術大会
大阪 SJCD 第211回例会 衛生士セッション

2019.8.3 10:00~12:30

会場：大阪西梅田ブリーゼブリーゼ

令和1年8月3日（日曜日）大阪西梅田ブリーゼブリーゼにおいて、
日本臨床歯科学会 大阪支部衛生士会 衛生士セッションが開催された。
大変暑い中にもかかわらず、多くの衛生士が参加しステップアップとなる
充実した内容となった。

今回の2名の衛生士会員による発表では、リスクを分析しカリエス・リスクが高い
患者もしくはペリオリスクが高い患者それぞれに合わせた具体的なアプローチ法を
発表し参考にできるものであった。

教育公演での大森有樹先生による話では、日々の診療を振り返る機会となった。
「なぜ」このようになったのか、患者に必要なことは何か、衛生士は何をすべきか
真の歯科衛生士の役割の重要性を認識することができた。

1) 「初期治療における問題点へのアプローチ」 ～プラークコントロール～

ヨリタ歯科クリニック 濱口 祐歌さん



2) 「SPTにて良好な歯周組織を維持している重度歯周炎患者の一症例」

カツベ歯科クリニック 佐々木 英梨奈さん



3) 教育講演

「齲蝕・歯周病・力のリスク分析に基づく、良質な歯科医療を
提供するための、歯科衛生士の真の役割」

大 森 歯 科 医 院

大 森 有 樹 先 生



「正しい知識を習得し、日々の診療を意識して取り組むことでトラブルを未然に防ぎ、真の患者さんに寄り添うことのできる衛生士になれる。」といった今回の会員発表、教育講演共に、明日からの診療に役立つ内容であった。